



## 1 事業の成果

昨年度に引き続き、多様な事情で働きづらさを抱える方と人手不足の農業界をつなげるための就農支援プログラムを開催した。引きこもり状態の方、働くことに不安を抱えている方、長期間働いていない方、障害を持っている方等に対して、農作業を通じて自身の目標を設定し雇用就農を目指すプログラムや、居場所づくりの一環として畑を活用するプログラムを継続的に実施することが出来た。

またプログラム開催以外では、新しく野菜作りを始めたい方や農作業を通じての自立就労支援に関心がある方を対象にして、動画・冊子・ホームページ等、各々の活動をサポートするための教材を作成した。特に就農支援プログラムの担い手となるトレーナー育成事業を強化した。

さらに雇用就農に向けた出口調査として、藤沢市周辺地域の農業従事者に対するアンケート調査・ヒアリング調査を実施し、新規労働力確保の実態を把握することに繋がった。

## 2 事業内容

### （1）令和3年度 農林水産省 新規就農者確保推進事業（農業労働力確保支援タイプ）

藤沢市周辺地域を対象に、農業法人及び農家における労働状況を調査し、人手が必要な時期や雇用に対する課題を把握し、調査報告書を作成した。現在までの雇用状況、労働力のニーズの有無、雇用する人材に求める作業と性格など。

- ・Google フォームを用いたアンケート調査を実施 回答者：農業者 125 名
- ・インタビュー形式のヒアリング調査を実施 回答者：農業者 30 名

### （2）神奈川県地域の支え合い仕組みづくり事業

- ・ひきこもりの周囲の方が農業を始めることをサポートする冊子（令和2年度に作成）を約1500部配布。またひきこもり支援のサポート教材として、農業の始め方ホームページと野菜作り動画を作成。
- ・ひきこもり状態の方の周りの方が通える農業体験会オープンデーを月に1度開催。

時期：6月～3月

- ・受益対象者：引きこもり状態の方ご本人および引きこもり状態の方を支える家族など周りの方など
- ・受益者数：のべ45名

### （3）新型コロナウイルス対応緊急支援事業

前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により仕事を失った若者支援のためのコンソーシアムより助成を受けて実施。コロナ禍で職を失った方を雇用して賃金を支払い、地域の農家・法人等に出向し、農作業をしながら、経営・営業・販売や地域とのつながりを活かした多様な仕事経験の機会を提供。

時期：4月～1月

受益者数：アルバイトとして11名を雇用

### （4）農福連携による働きづらさに対する就労支援事業

日本財団より助成を受けて実施。

・夏野菜栽培スクール 週に1度2時間ほど野菜栽培について実践しながら学ぶ。野菜を作り上げる体験により自己肯定感を取り戻し、仲間との共同作業によりコミュニケーション力の向上につなげる。

時期：4月～9月（計20回）

受益者：多様な事情で働きづらさを抱える人 のべ98名

・地域農家での研修 近隣農家・農業法人を訪問、週に1度2時間程度の農作業を行うことで、農業界での仕事をより直接的に身に付ける。

時期：8月～12月（計20回）

受益者：多様な事情で働きづらさを抱える人 のべ62名

・農業従事者へのインタビューを通じて、農業との様々な関わり方や魅力、農家になる際の流れなどを記載した農園紹介パンフレット作成。

・

・受益者数：のべ160名

#### （5）令和3年度社会福祉振興助成事業

独立行政法人福祉医療機構より助成を受けて実施。働きづらさを抱える方への就農研修プログラムの提供を行うトレーナー育成事業を行った。

・トレーナー育成冊子、トレーナーを目指す方が農業や支援の仕方を学べるWEBページの作成。

・トレーナー入門講座をオンライン開催

時期：2月（3回）

受益対象者：農業者、行政職員、福祉団体職員、市民農園を利用されている方など

受益者数：65名

・農スクールプログラム受講後の働く姿を実感できる交流会を開催

時期：11月（1回）

受益対象者：農スクールプログラムの現役生、卒業生、ご支援者など

受益者数：34名

#### （6）鎌倉市の障害者等農業就労体験セミナー実施

鎌倉市在住の方を対象にした農業就労体験セミナーを月1回開催。

時期：5月～3月（計12回）

受益対象者：働きづらさを抱える鎌倉市民

受益者数：のべ52名

#### （7）認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいへの農園利用サービス提供と農業体験補助

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいのミライカナエル活動サポート事業として、週に1度開催される農業体験会の補助を行った。農園整備、道具準備等を実施した。

時期：4月～3月